

もく ぞう がん

木象嵌

と じま こう き

戸島甲喜氏

## 千葉県指定伝統的工芸品(平成8年度指定)

木象嵌は一枚の板に、様々な形に象(かたど)り色調の異なる木材を嵌(は)めこみ、絵や文字、模様などを表現する技術であり古くは奈良時代から見られ、受け継がれています。

戸島氏は、色調の特徴を色濃く出す、「焦がし」という技術で濃淡な色を出し、立体感を出す技法を多く使い、機械象嵌を受け継ぐ全国でも数少ない木象嵌師の一人です。

戸島氏が制作した工芸品は、ブローチ、ペンダント、小箱など様々な物を制作しており、特に木画(パネル)は、海外でも高い評価を受けております。千葉県立美術館には、11点の木画(パネル)が収蔵されています。



熱した川砂に木片をくぐらせる技術「焦がし」



◇お問合せ◇ ご見学(土・日の午後のみ)ご希望の方は、下記まで事前にご連絡ください。  
(ご連絡当日のご見学はご遠慮ください。)

戸島 甲喜 市川市北方 047 (336) 6500